

# 小牧山城石垣の特徴

## その1 巨石野面積石垣



①残存するのは基底部付近の2～3段でさらに3～4段石垣が積まれていたと推定される

①の整備後



②主郭大手脇には花崗岩巨石を配置(整備後)

③築石のすき間には精緻に積みめられた間詰石

## その2 2～3段の段築、岩盤加工との併用



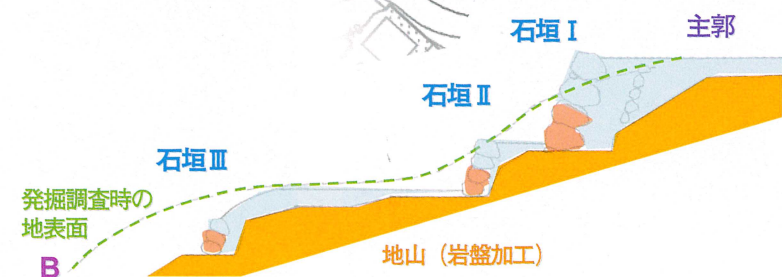
④段築された石垣(石垣Ⅰ・Ⅱ)

⑤岩盤加工と石垣(整備後)



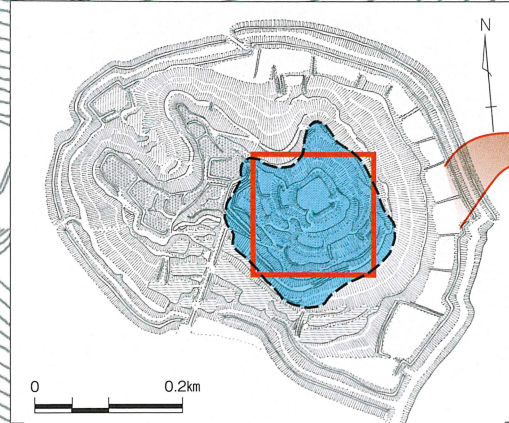
⑥3段目の石垣(石垣Ⅲ)

推定復元模型による3段石垣のイメージ



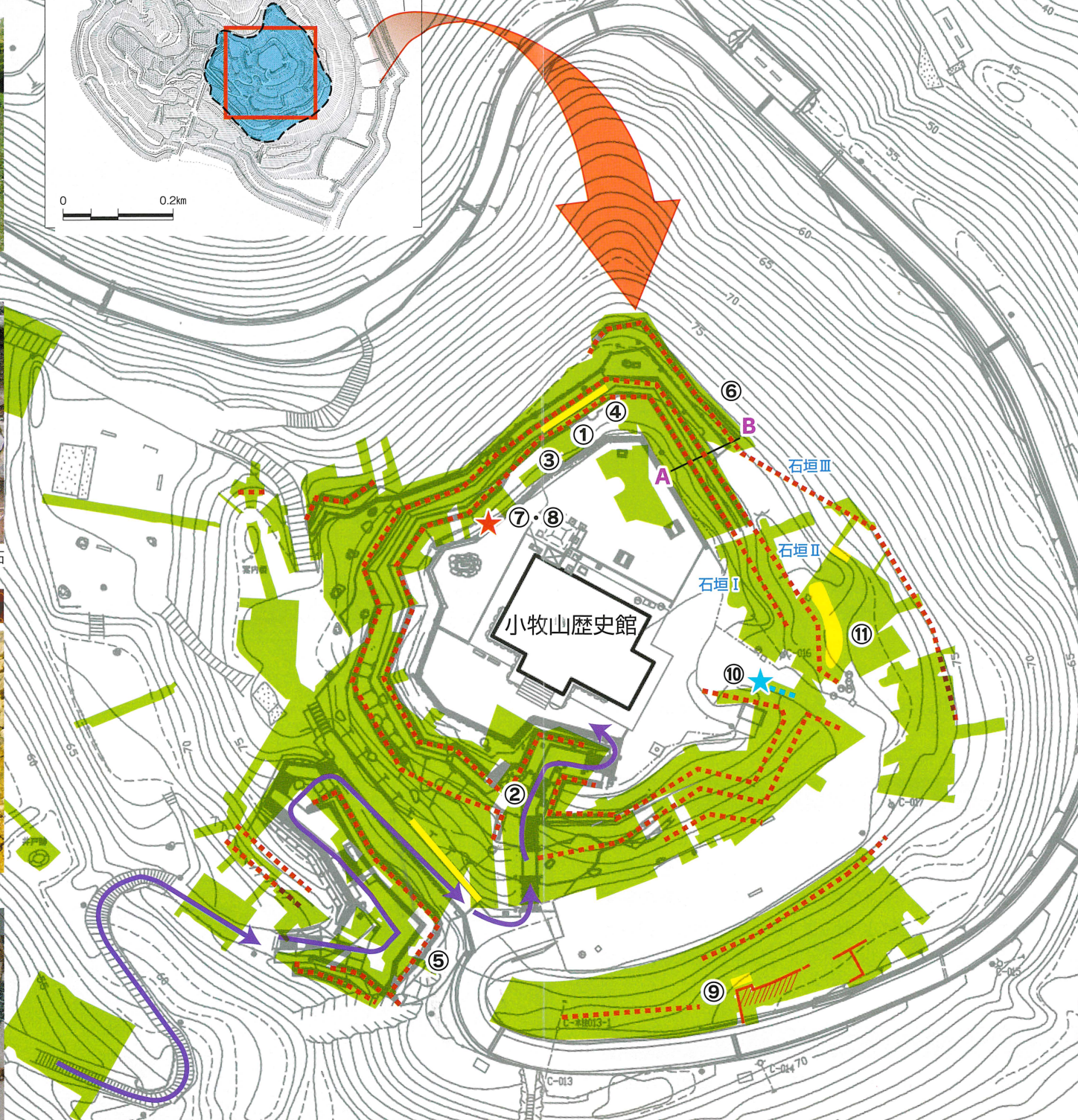
A-Bラインの石垣Ⅰ～Ⅲ断面模式図

小牧山城縄張図( が主郭地区)



小牧山城主郭地区石垣 概要図

- 発掘調査実施範囲
- 石垣確認推定ライン
- 大手道の推定ルート
- 玉石敷



## その3 裏込石・土留石の使用



⑦石垣Ⅰの背後を上から見たところ

⑧左から石垣Ⅰの尻部、裏込石、土留石、造成土

## その4 建物跡・庭園跡



⑨主郭南東下段の曲輪の礎石建物跡と玉石敷、側溝(図中黄色線)

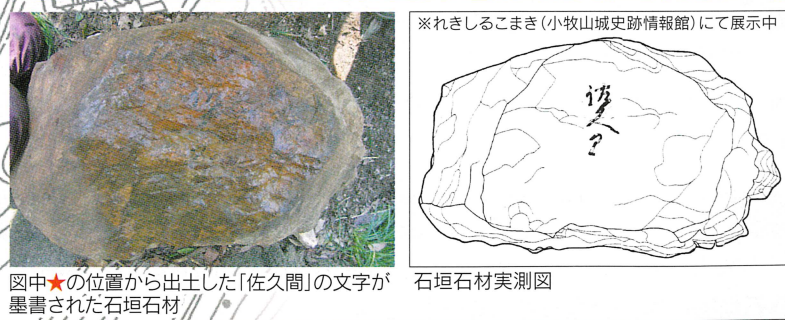
⑩搦手虎口石垣Ⅰ前の礎石(手前)と側溝(奥)(図中★と黄色線)



⑪石垣Ⅱとその前面の庭園に伴う玉石敷(図中黄色線)

立石(庭などの飾りとして、まっすぐ立てた石)と介石(築石などの裏面に接し、支える役割をもつ石)

## その5 墨書石垣石材の発見



図中★の位置から出土した「佐久間」の文字が墨書された石垣石材

石垣石材実測図

## 小牧山城の石垣を築いたのは 信長？家康？

小牧山城の石垣が築かれた時期について、出土した資料(遺物)による時期判定は少量のため困難です。しかし、小牧山城をめぐる歴史的経緯からみて、永禄6年(1563)織田信長の小牧山城築城時(永禄期)、または天正12年(1584)徳川家康による小牧・長久手の合戦の際の改修時(天正期)のどちらかに絞られることは間違いありません。天正期の改修については、これまでの調査では石垣あるいは石を用いた形跡は一切確認できていません。一方、大手道の調査では、石積を採用した永禄期の大手道(旧)を天正期の石積のない大手道(新)が埋め立てていることが確認されました。【A】また、主郭をめぐる石垣の調査で、石垣石材の一部に小牧山北東に位置する岩崎山から運んだと思われる花崗岩が使われていることが判明しました。【B】岩崎山は小牧・長久手の合戦時には敵である羽柴(豊臣)秀吉方の砦として使用されており、敵方の陣地から石材を調達して石垣を構築する、ということは不可能であると思われます。これらの調査成果から、小牧山城の石垣は信長が築いたと推定できます。



【A】新旧2つの大手道

【B】石垣に用いられた花崗岩石材